

令和6年度第1回 病院運営審議会資料

はじめに……………	P. 1
令和5年度実績について……………	P. 2
令和6年度4～8月の取組状況について…	P. 9

はじめに

- 令和5年度は年度当初にコロナが5類感染症となり、ウィズコロナからポストコロナへの移行時期となりました。当院も、感染症への対応を行うと同時に一般診療をコロナ流行前の水準に戻す取組みを進め、診療科の再編、診療科の新設など、地域の急性期医療を担う病院としての新たな取組みを行っています。
- 今年度、市立豊中病院は開設80周年を迎えました。ホームページでは過去の写真や寄稿文による特集ページを作成し、7月には小学生を対象とした記念イベントを実施しました。
- 当院はこれからも地域の急性期医療を担い、地域のみなさまの安心を支える病院として、取組みを続けます。



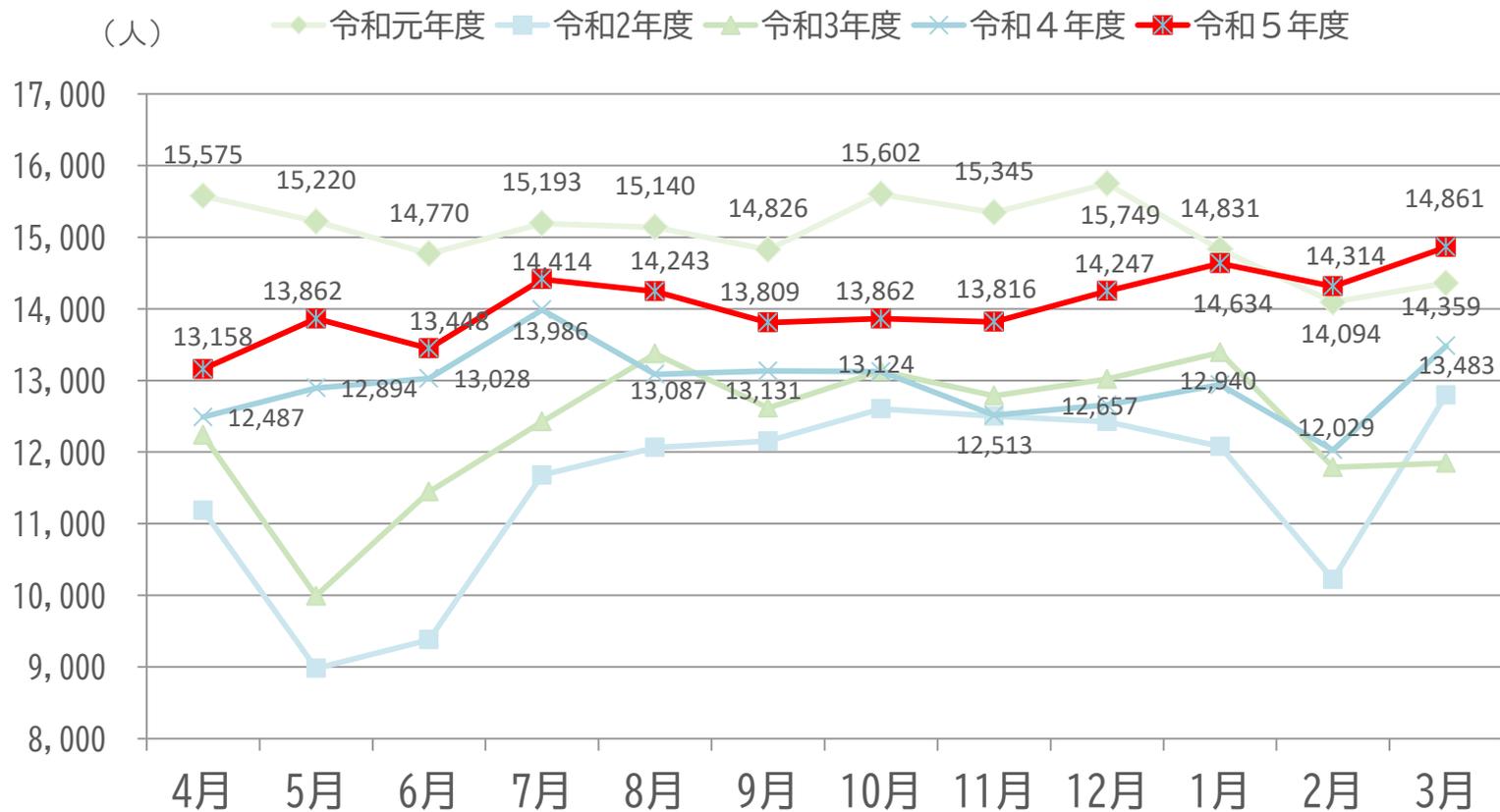
令和5年度実績について

1. 主な診療実績の年度比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減 (R4・R5比較)
新規入院患者数	15,875人	11,833人	13,178人	14,022人	15,503人	1,481人
入院延患者数	180,704人	138,064人	148,049人	155,359人	168,668人	13,309人
外来延患者数	289,639人	241,245人	261,248人	274,936人	272,553人	▲2,383人
一般病床利用率	83.0%	63.6%	68.3%	71.7%	77.6%	5.9%
平均在院日数	10.4日	10.7日	10.3日	10.2日	9.9日	▲0.3
全手術件数	5,269件	4,133件	4,588件	5,010件	5,569件	559件
救急車搬送受入数	6,106人	3,776人	5,694人	6,685人	7,926人	1,241人
救急科からの入院患者数	5,176人	3,242人	3,797人	4,160人	5,190人	1,030人
入院診療単価	64,541円	70,119円	71,786円	73,964円	75,974円	2,010円
外来診療単価	18,229円	19,137円	19,497円	20,762円	21,592円	830円

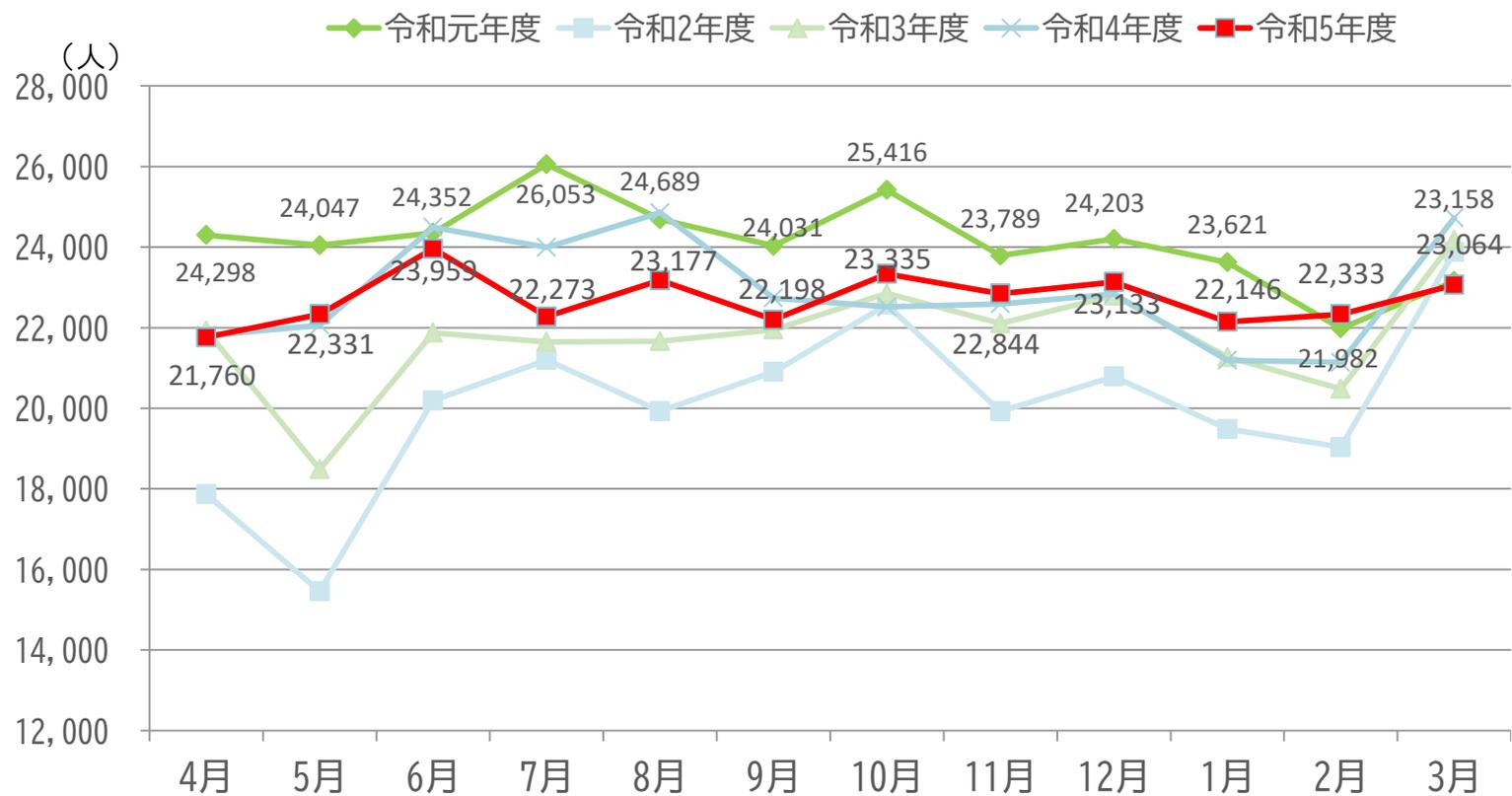
※一般病床利用率は、人間ドック(5床)・感染症(14床)を除く594床で計算

2. 入院延患者数の推移



- 令和5年度はいずれの月も昨年度を上回り、年度末にはコロナ前の令和元年度水準に近い14,861人となった。

3. 外来延患者数の推移



・ 令和5年度は昨年度をやや下回り、概ね2万3000人前後を推移した。

4. 決算状況①(収益的収支:収益)

主要なもののみを表記(税込、単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減 (R4・R5比較)
病院事業収益 (A)		19,443,196	20,493,001	21,700,652	22,074,952	21,682,050	-392,902
	医業収益	17,753,815	15,009,131	16,442,529	17,936,159	19,470,727	1,534,568
	入院収益	11,662,845	9,680,954	10,627,831	11,490,977	12,814,433	1,323,456
	外来収益	5,279,900	4,616,672	5,093,579	5,708,327	5,885,041	176,714
	その他医業収益	811,070	711,505	721,119	736,855	771,234	34,379
	医業外収益	1,689,381	5,483,870	5,258,123	4,138,793	2,211,323	-1,927,470
	他会計負担金	542,617	529,908	519,097	534,633	594,157	59,524
	他会計補助金	390,641	440,409	385,505	413,138	396,756	-16,382
	補助金	74,448	3,894,018	3,626,554	2,489,486	518,262	-1,971,224
	長期前受金戻入	483,935	478,651	499,715	491,065	482,630	-8,435
	その他医業外収益	197,707	140,863	227,232	210,441	218,678	8,237

※ 新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、入院患者数増や外来単価増等により、医業収益は15億円の増加。一方でコロナ補助金の減少により医業外収益は19億円減少し、総額として4億円減少した。

5. 決算状況②(収益的収支:費用)

主要なもののみを表記 (税込、単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減 (R4・R5比較)
病院事業費用 (B)		20,192,680	19,650,542	20,546,609	21,815,408	22,229,825	414,417
	医業費用	19,941,046	19,408,133	20,340,914	21,505,559	22,061,677	556,118
	給与費	9,837,654	9,998,507	10,327,245	10,519,323	10,675,373	156,050
	材料費	5,495,793	4,827,805	5,308,909	5,807,976	6,246,085	438,109
	経費	3,165,175	3,243,732	3,374,863	3,783,391	3,867,834	84,443
	減価償却費	1,375,300	1,240,533	1,267,372	1,291,653	1,188,619	-103,034
	資産減耗費	8,844	65,426	23,439	53,162	17,058	-36,104
	研究研修費	58,280	32,130	39,086	50,054	66,709	16,655
	医業外費用	251,634	242,409	205,695	309,849	168,148	-141,701
	支払利息及び企業債 取扱諸費	212,572	184,562	156,393	128,550	98,399	-30151
	看護師等確保費	7,972	10,547	10,331	10,300	7,512	-2788
雑損失	7,633	30,694	19,510	150,442	41,372	-109,070	
資本勘定消費税等 (C)		88,267	101,394	71,199	38,240	110,988	72,748
当年度純利益(▲純損失) (A-B-C)		-837,751	741,065	1,082,844	221,304	-658,763	-880,067
医業収支比率		92.1%	80.2%	83.9%	86.7%	91.8%	5.1%
経常収支比率		95.9%	103.8%	105.3%	101.0%	97.1%	-4.0%

※ 制度改正に伴う賞与引当金繰入額増による給与費の増加、患者数増や物価高騰による材料費等の増加により、総額4億円増加した。この結果、令和5年度収支は6.6億円の純損失となった。

6. 決算状況③(資本的収支)

主要なもののみを表記 (税込、単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減 (R4・R5比較)	
資本的収入 (D)		1,779,481	1,806,783	1,564,490	1,211,930	2,138,263	926,333	
	企業債	882,600	737,000	575,300	264,000	1,090,300	826,300	
	他会計負担金	895,441	898,363	949,803	945,098	1,015,297	70,199	
	国庫補助金	-	2,755	-	-	-	-	
	府補助金	1,440	150,219	20,492	-	-	-	
	寄附金	-	18,446	6,344	2,832	26,315	23,483	
資本的支出 (E)		2,612,730	2,595,921	2,345,186	1,979,930	3,152,100	1,172,170	
	建設改良費	1,133,711	1,116,442	783,189	420,634	1,227,539	806,905	
		施設改良事業費	156,774	365,888	393,761	75,545	145,505	69,960
		院用備品購入費	976,937	750,554	389,428	345,089	1,082,034	736,945
	投資	-	17,776	6,729	2,417	324,473	322,056	
	企業債償還金	1,479,019	1,461,703	1,555,268	1,556,879	1,600,088	43,209	
差引不足額 (E-D)		833,249	789,138	780,696	768,000	1,013,837	245,837	

- ※ 施設改良事業として搬送設備整備工事や空調自動制御設備整備工事等を実施
- ※ 院内備品(医療機器等)として超電導磁気共鳴画像診断装置一式やX線透視装置等を購入

7. 寄附、寄贈の状況

令和5年度につきましても、
延べ23の団体や個人の方々から、温かいご支援をいただきました。

マスク、寄附金(26,315,000円)

ご寄附いただいた内容につきましては、
市立豊中病院ホームページに掲載しています。

令和6年度4～8月の取組状況について

I 急性期医療を中心とした医療機能の充実

① 特定病床50床の返還と再活用

令和5年度末をもって、3階北病棟で特定病床*（リハビリテーション）として運用していた50床を返還いたしました。

この返還により生じた3階北スペースには、5月20日より外来治療センターが移転し、運用を開始しています。

これまで外来治療センターは管理棟3階にあり、15床で運用していましたが、患者様の増加に伴い、病床数の不足が課題となっていました。

今回の移転によってスペースが拡張となり、年度内に24床まで運用を拡大する予定です。

また、返還病棟分の看護師定数を化学療法室看護師や患者支援室看護師、リハビリ療法士等に振りかえることで、急性期医療体制や地域連携・患者サービスの拡充の他、一般病床での急性期リハビリ充実等を進めています。

なお、今回の移転については、返還後の3階北スペースを可能な限り速やかに活用するための第1段階として位置づけており、3階北スペースを含め、病院全体の施設活用案については、現在も検討を継続しています。

* 特定病床

都道府県の医療計画において基準病床数を超える病床が存在する地域でも、厚生労働省令で定める特定の要件を満たした場合に、特例として都道府県が設置を認めた病床。（要件を満たさない運用はできない）

② 5センターの開設

- ・「消化器センター」
- ・「脳卒中センター」
- ・「心臓病センター」
- ・「糖尿病センター」
- ・「地域周産期母子医療センター」

の5つの専門医療センターを開設しました。

これらは従来より、会議体・外来や病棟体制・関連部署の連絡会のような位置づけで運用を行っておりましたが、令和6年4月に病院組織として正式に設置したものです。

医師のみならず、専門的スキルを有するコメディカル職員を配置することで、さらなる医療のレベルアップを図るとともに、後進の多職種専門スタッフを育てる機関としての役割を担います。

③ 消防局救急救命士配置に向けた調整

当院の救急科に、豊中市消防局の救急救命士を配置する取組みを検討し、実施に向けて調整しています。これによって、救急救命士は現場での研修、当院は救急救命士による業務連携が可能となります。まず試行実施により結果を検証し、次年度以降の運用につなげるための課題を整理していきます。

関連する運営計画の取組方針：

IV 安定した経営基盤の確立(医療施設や機器の効率的運用)

令和6年度4～8月の取組状況について

Ⅱ 地域連携の推進 ・ Ⅲ 患者サービスの向上

①患者サポートセンター

仮スペースでの運用を行いながら支援スペースの拡充を実施し、7/25に1階正面入口横に、患者サポートセンターをオープンしました。

一部の予定入院患者に実施していた入院前支援（入院の準備、手術・検査や治療前後の経過の説明、入院前の情報収集等）を、すべての予定入院患者対象へ拡大しました。

また、院内1階に点在していた患者相談窓口を再編しました。介護や在宅医療などの相談、医療費や社会保障制度などの医療福祉相談、療養相談、がん相談、脳卒中相談、医療安全相談などさまざまな相談の受付を1か所で行います。相談内容に応じて専門員が対応し、患者さんにとって、より便利で相談しやすい環境を提供します。

②豊中市の主要施策（「子育てしやすさNo.1」）関連

・産後ケア事業の拡充

豊中市では、出産後、お産と育児の疲れから体調がよくない、育児に不安がある、自宅に帰っても手伝ってくれる人がいないなど、産後に支援が必要な人を対象に、産後ケア事業を実施しています。市立豊中病院もこの事業に参加しており、これまで院内出生の産後1ヶ月以内の母子を対象としていましたが、5月31日より他院出生児かつ3ヶ月以内の母子まで対象を広げました。

・小児科入院の環境整備

小児科入院の付き添い保護者のみなさまへのアンケート結果を受け、保護者にむけた環境改善として、付き添い者用補助ベッドを配置しました。

Ⅳ 安定した経営基盤の確立

①データを活用した診療内容の分析

令和6年6月の診療報酬改定の内容を含め、各診療科で取り扱う主な症例について、診療内容や診療報酬請求の適正化について検討しています。全国の医療機関のベンチマークを当院の内容と比較し、各診療科の医師がそれぞれの診療内容について具体的に確認を進めています。

②急性期医療拡充にむけた院内施設の有効活用について

前述のとおり、3階北病棟は特定病床返還後、外来治療センターとして活用を開始しました。現在、3階北スペース内を区分する効率的活用案の検討も行っています。この他、救急科スペースの拡張も含め、当院のめざす高度な急性期医療の提供に向け、院内施設の効率的活用について引き続き検討しています。

③働き方改革への取組み

特定病床返還に伴い再配置する人員の確保・活用により、多職種連携を強化し、タスクシフト・タスクシェアを進めるため、医療技術職の採用試験を4月から6月にかけて実施しました。また、長時間労働面談を着実に実行するとともに、働き方改革にかかる研修を8月までに3回実施しました。

関連する運営計画の取組方針：Ⅰ急性期医療を中心とした医療機能の充実

